

#### 東京慈恵会医科大学

公益社団法人 私立大学情報教育協会 栄養学・薬学・医学・歯学・看護学グループの 分野連携アクティブ・ラーニング対話集会



## e-ポートフォリオを活用した 看護学授業の実践と評価

2018.1.21 東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 梶井 文子

## 本日の内容

- I.本学科のe-ポートフォリオシステムの概要
- II.4年間のe-ポートフォリオシステムの運用と評価
- Ⅲ.今後のe-ポートフォリオシステムの課題



### I.本学科のe-ポートフォリオシステムの概要 1.e-ポートフォリオシステム導入の 趣旨と経緯

・ 平成22年度文部科学省大学教育推進プログラム 「学生一人ひとりを育てる学習評価システム」

学部教育で行われている総合試験による数量的評価結果と演習・実習評価による学生個人への質的評価結果をサーバーで一元管理し、学生一人ひとりの学習ポートフォリオを構築し、学生の成長を時間的な推移として捉え、この結果を学生個人にフィードバックすることで学生の時間軸での成長を具現化することを目的にする。

#### 〈平成21年度〉

#### 取り組みの軌跡1

#### ●紙ベースでのポートフォリオの導入

〈平成23年度〉

看護学科プロジェクトの開始→科目横断試験プロジェクトの開始 前年度の医学科コンピューター試験システム開発、学習ポートフォリオサー バー開発を受け

- 1.看護学科用コンピューター試験システム開発および試験端末の購入
- 2.コンピューター試験実施に向けての準備:MCQ作問についての医学科FDへの参加、看護学科FDの開催

#### 3.科目横断試験の試験実施(1年生対象)

4.e-ポートフォリオシステム先行例の視察・研修(日本女子大学小川研究室、 米国ミネソタThree Canoes

のプライベートワークショップへの参加)

5.教員会議での紙ベースポートフォリオ説明会の実施

#### 〈平成24年度〉

- 1.紙ベースでのポートフォリオの看護総合演習 I への導入
- 2.e-ポートフォリオに関するFD開催(講師:昭和大学富士吉田教育部 倉田知光教授)
- 3.e-ポートフォリオ米国研修報告会の開催
- 4.e-ポートフォリオシステムの開発(with エミット・ジャパン)
- 5.看護学科e-portfolioセミナー「e-ポートフォリオシステムの構築と授業活用」開催

#### 取り組みの軌跡2

#### 〈平成25年度〉

- 1.第2回科目横断総合試験の実施(新2年生、新3年生)
- 2.平成25年度入学生60名からe-ポートフォリオを活用した教育を開始
- 3.教員を対象としたe-ポートフォリオ運用研修の企画

#### 〈平成26年度〉

- 1.第3回コンピューター試験の実施(新2年生、新3年生、新4年生)
- 2.1年生、2年生がe-ポートフォリオを活用(2年生:はじめてのepを用いたリフレクション)
- 3. e-ポートフォリオを活用した教育の評価研究を開始
- 4.学会等における取り組みに関する情報発信(日本看護学教育学会、日本 看護科学学会)

#### 〈平成27年度〉

- 1.無線LANの工事
- 2.新機能の追加
- 3.学内・学外への情報発信(教育戦略ICT大会、成医会、日本看護学教育学会、オープンセミナー)

#### 〈平成28年度〉

- 1. 1~4年生までがe-ポートフォリオを活用
- 2. e-portfolio賞の表彰、 e-portfolioの授与
- 3. 学内・学外への情報発信(日本看護学教育学会、他大学との情報交換)

## 教育理念 教育目標

#### 教育理念:

人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・ 社会的要請に応じられる看護の基礎的能力を養い、看護学の 発展に貢献できる創造性豊かな資質の高い看護実践者を育成 する。

#### 教育目標:

- 1.人のいのちを尊び、人の心を大切にする豊かな感性と高い倫理観を培い、豊かな人間性を養う。
- 2.看護の対象の全人的理解を目指し、パートナーシップを構築していく能力を養う。
- 3.人々の生活・健康の質を高めるために看護専門職として <del>必要な知識・技術</del>を習得し、科学的根拠に基づいた看護実践 ができる能力を養う。
- 4.社会情勢の動向を踏まえ、看護の専門職者として自律して保健・医療・福祉領域と協働できる能力を養う。
- 5.主体的な学習態度を身につけ、自己研鑽し続ける能力を養う。

## 新カリキュラム(H29~) 看護学科ディプロマ・ポリシー

(卒業認定・学位授与の方針)

#### D8: 国際的視野

国境を越えた地球規模の視野を もち、他国の人々の健康と看護 の現状を学び、特有の健康問題 に焦点をあてた看護職の取り組 みや方法について理解する。そ のキャリアデザインを描くこと ができる。

#### D7:メンバーシップ・

リーダーシップ

d1:チームの目標達成や成長にむけて自己の 責任・役割を理解し、メンバーと協働するこ とができる (メンバーシップ)

d2:チームの目標達成や成長にむけてメン バーの意識を高め、集団として成果を上げる ためにチームを動かす(リーダーシップ)

#### D1:主体的学修能力

d1:生涯に渡り研鑽し続けることがで きるよう、主体的に学修に取り組む力を身につけることができる。

d2自らのこうなりたいという将来像 (ビジョン)と目標(ゴール)に向 かって自律した学修活動を行い、そ の振り返りにより、ビジョンとゴー ルを見直し、成長し続けることがで きる。

#### D2:課題解決能力

d1:人々の多様な健康課題を明らかに し、それらの課題を解決するための最善 策を見出し、実践・評価し続けることが できる

d2:看護の対象に関わる課題解決に必 要な基礎的研究を実施できる

#### D3: パートナーシップ

学祖高木兼寛の"病気を診ずして病 人を診よ"に従って看護の対象とな る人々に関心と理解を示し、互いに 尊重しあい協働して合意した目標に 向かって共に歩む関係を創る能力を 身につける。

#### D6: 教養に裏付けられた品格 を備えた態度

d1: 社会規範意識を持ち、対象や周 囲の状況にあわせた礼節を守ること ができる。

d2:人を慈しむ心を持ち、ゆたかな 人間性を備えることができる。

#### D5: 倫理的姿勢

d1:自ら自己を内省する力を高め、 自己と他者の持つ価値観(考え方・言 動)を尊重できる。

d2: 看護の対象となる人々の最善の 利益を保証するために、その対象の 権利を尊重し、対象の立場に立って 考え支援する姿勢をもつことができ る。

#### D4: 地域医療連携能力

学祖高木兼寛の"医師と看護師は重 の両輪の如し"の理念に従って人々 の生活と健康の質を高めるための目 標を医師をはじめとする多職種と共 有し、社会状況の変化に応じた保健 医療福祉システムにおいて、 多職種 連携の必要性と看護専門職の果たす 役割を理解し説明できる

## ポートフォリオ

- 自分で獲得した情報や自分の変化や成果を ひとつにまとめた(一元化した)ファイル
- ・学習者が自発的に学びの伸びや変容を多面的多角的、かつ長期的に評価し、新たな学びに生かすために学習物を集めた<u>学びの</u>ファイル

(鈴木,2006)

自分の意志で学んでゆくことをサポートしてくれる道具

ポートフォリオ導入の目的:学生の主体的な学びを強化する

#### ポートフォリオ活用のプロセス

①ビジョンを明確化し、ビジョン を実現するためのゴール(目標)を設定する。

②自分のビジョンやゴール(目標)に照らし合わせて学習した内容(情報、自分の変化、評価等・・・含め)を一元化してゆく・・・ポートフォリオ(学びのファイル)作成

ゴール 目標 知の「成果物」

③ビジョンやゴール(目標)に照らし合わせて学習者自身が自分の学びを振り返って「評価」する。

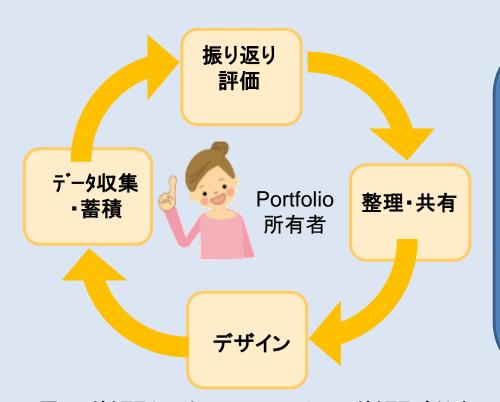
④ポートフォリオ(学びのファイル)を 見返して整理する(知の再構築)、他 の人と学んだことを共有すること(知 の共有)を通して、自分が学んだこと を意味づけていく。

参考文献:鈴木敏恵【2006】ポートフォリオ評価とコーチング手法、医学書院、

ビジョン

願い

## フォリオシンキング



ポートフォリオの有効活用 によっておこる深い学習

e-ポートフォリオは学習者の自立的な深い学びを促進 するツール

深い学習によってのみ、学習者は、学びを心の内にとどめ、自分の 知識にまで高めることができる。

e-ポートフォリオの可能性は、真の学習(authentic leaning)を記録し促進することであり、「フォリオシンキング」を実現するように学習パラダイムを変換することである。(Smith, 2012)

## 本学e-ポートフォリオシステムの特徴

- 1. 学生自身のビジョンとゴール、および看護学科の教育理念から抽出された学生に獲得して欲しい7能力に関して開発したルーブリックスに対するリフレクション機能を設定。 (※旧カリ)
  - ①クリティカルシンキング、
  - ②コミュニケーション、③倫理観、④技術、⑤知識、
  - ⑥態度、⑦主体的学習力
- 2. 各学年での技術の定着率を学生自身が確認しながら学びを 進めてゆけるように、リフレクションに看護技術ステップ アップノートを連動。
- 3. 各学年での知識の定着率を学生自身が確認しながら学びを 進めていけるように、リフレクションにコンピューターに よる科目横断総合試験を連動。

## e-ポートフォリオの構成

- 1. プロフィール画面
- 2. ビジョン・ゴール・リフレクション画面 学生自身のビジョン・ゴール 獲得してほしい7能力
  - ⇒連動:科目横断試験画面 臨地実習自己評価画面 看護技術ステップアップノート画面
- 3. 学習成果物の蓄積とやりとり 看護総合演習 各看護専門領域画面

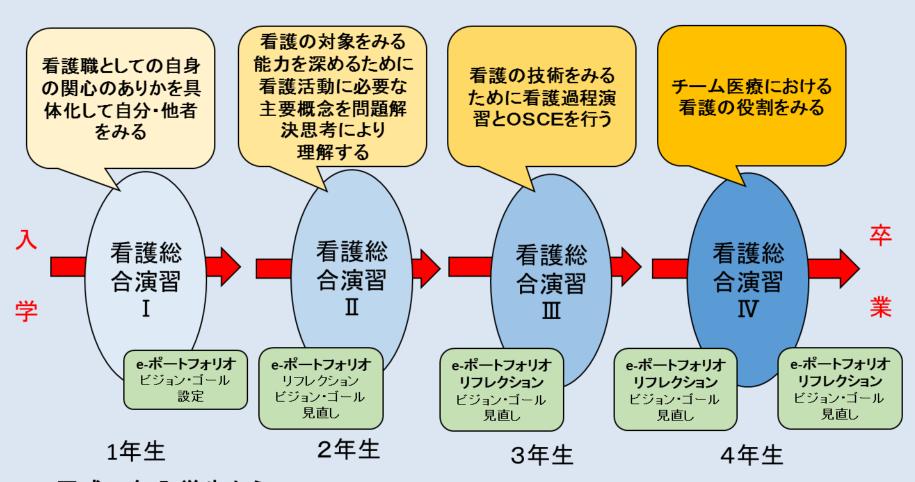
#### 学生画面

## 1. ログイン・プロフィール画面



## e-ポートフォリオの運用

学生自身がビジョンとゴールを設定し、リフレクションを行う。



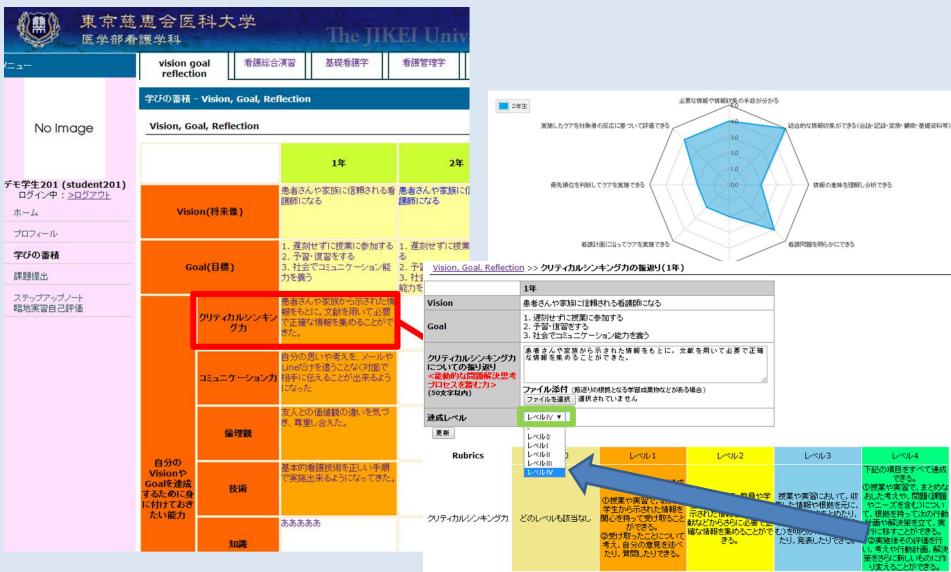
平成25年入学生から スタート

## ビジョン・ゴール・リフレクショ ン画面



## ルーブリックスで自己評価

①知識を除く項目 例-クリティカルシンキングカ



### 臨地実習の自己評価→レーダーチャートへ

No Image

臨地実習評価表 - 一覧表

※ 評価点: 1:出来なかった 2:あまりできなかった 3:普通 4:まあまあできた 5:できた 2年次 ▼ | 評価表を記入する |

#### **デモ学生301 (student301)** ログイン中: >ログアウト

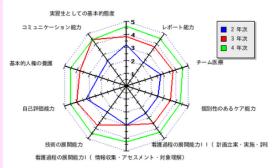
ホーム

ブロフィール

学びの蓄積

課題提出

ステップアップノート 臨地実習自己評価



#### 実習生としての基本的態度

技術の種類	2年次	3年次	4年次
実習生として基本的なマナーを守ることができる(身だしなみ、言葉使い、挨拶など)	3	2	5
実習生として倫理的で誠実な態度をとることができる	1	3	4
実習生として責任ある行動がとれる	4	5	5
自分の健康管理ができる	3	5	4
積極的な学習態度がとれる	5	4	5
総合	3.2	3.8	4.6

#### コミュニケーション能力

技術の種類	2年次	3年次	4年次
対象者の思いを理解し、受けとめることができる	2	5	4
対象者との信頼関係が築くことができる	2	4	5

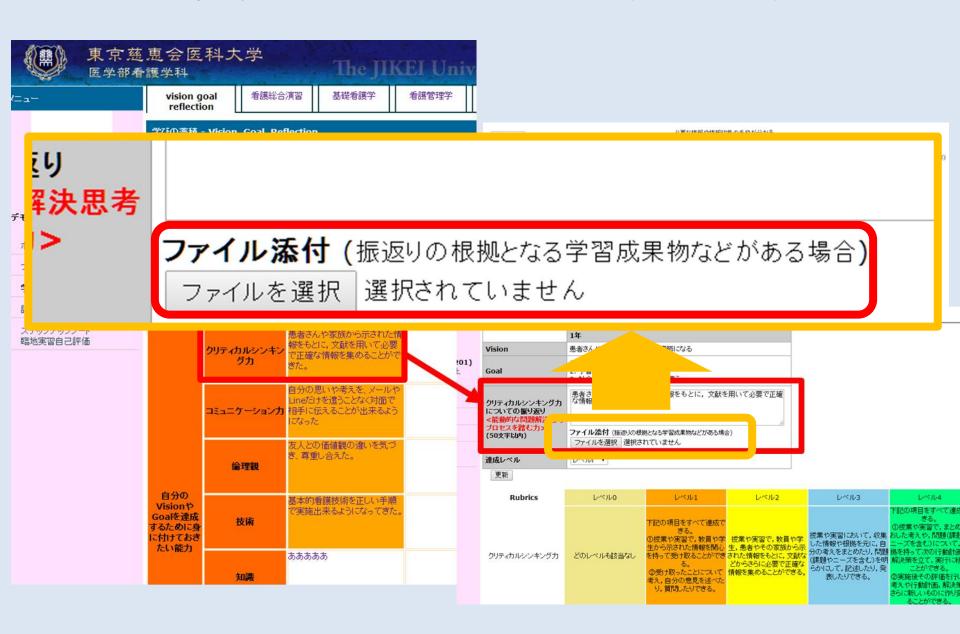






	1年	2年
Vision	患者さんや家族に信頼される看護師 になる	患者さんや家族に信頼される看護師になる
Goal	積極的に対面で考えを伝えることが出来る     遅刻せずに授業に参加する     予習・復習をする	1. 連のHe 切に接刺に参加する 2. 予語 (理話をする・ 3. 社会でコミニクーション能力を養う 4. 演説に根値切に参加する 5. 必要な情報を正確に取り着訳できる
クリティカルシンキングカ についての振り返り <能動的な問題解決思考		
プロセスを踏むカ> (50文字以内)		ファイル 茶付 (祭返りの根拠となる学習成果物などがある場合) ファイルを選択 選択されていません
達成レベル	レベル	. •
更新		

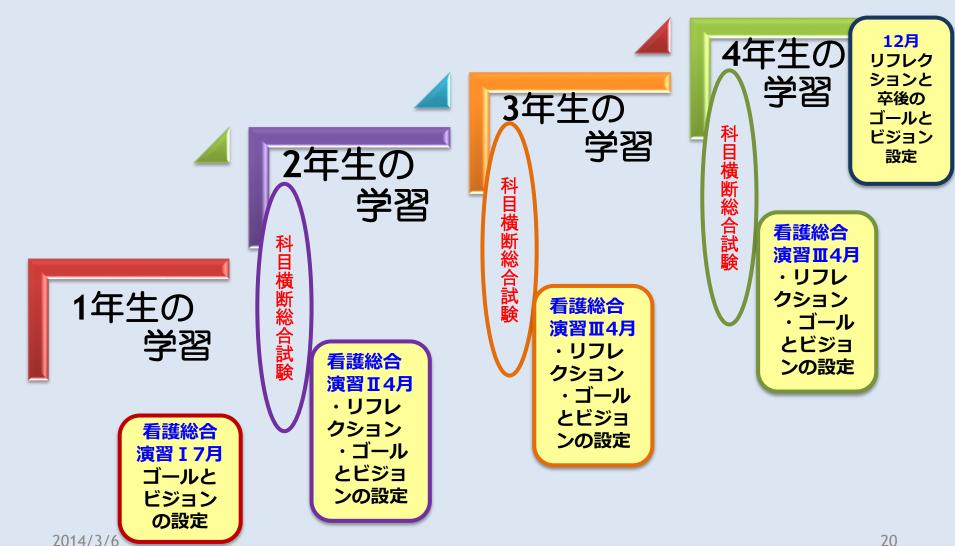
### 根拠となる学習成果物を蓄積



## 知識のリフレクション

- >知識のリフレクション内容
  - ①科目横断総合試験の得点率
  - ②学習成果物の蓄積
  - ③学年のすべての定期試験結果

#### eーポートフォリオを用いた 科目横断総合試験とリフレクションの時期

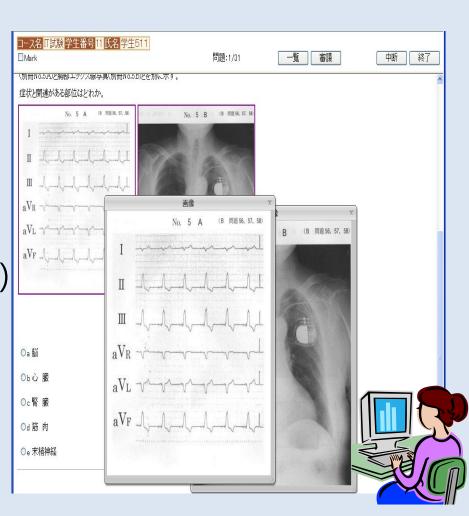


20

## 科目横断総合試験とは

学生が自分自身の知識獲得状況を確認し、今後の 学習課題を明確にした上で、主体的に学習を行って いくための機会とする。

- ▶ コンピュータ─試験
- ▶ 国家試験スタイル
- ▶ 厚生厚生労働省国家試験公募 問題作成マニュアル参考
- > 問題問題作成は全教員参加
- ➤ 問題、MCQ(多肢選択式問題) 方式で、taxonomy(評価領域 分類:想起レベル・解釈レベ ル・問題解決レベル)
- ▶ 1年間をとおして、作成一実施 一評価検証を繰り返している。



### 科目横断総合試験との連動について①

#### 科目横断総合試験の内容

学年	時間	問題数		
新2年生	60分 90問 想起レベル:80問 解釈レベル:10問			
新3年生	70分 120問 想起レベル:100問 解釈・問題解決レベ ル:20問			
新4年生	100分 想起レベル 解釈・問 ル:50問	150問 ノ:100問 題解決レベ		

#### 総合試験採点結果連絡票

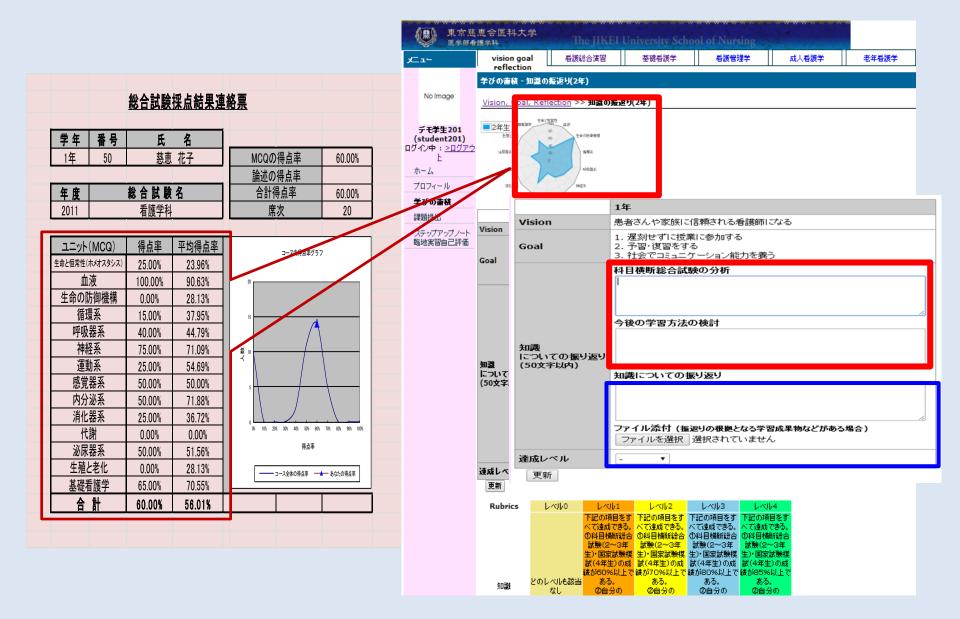
学 年	番号	氏 名
1年	50	慈恵 花子

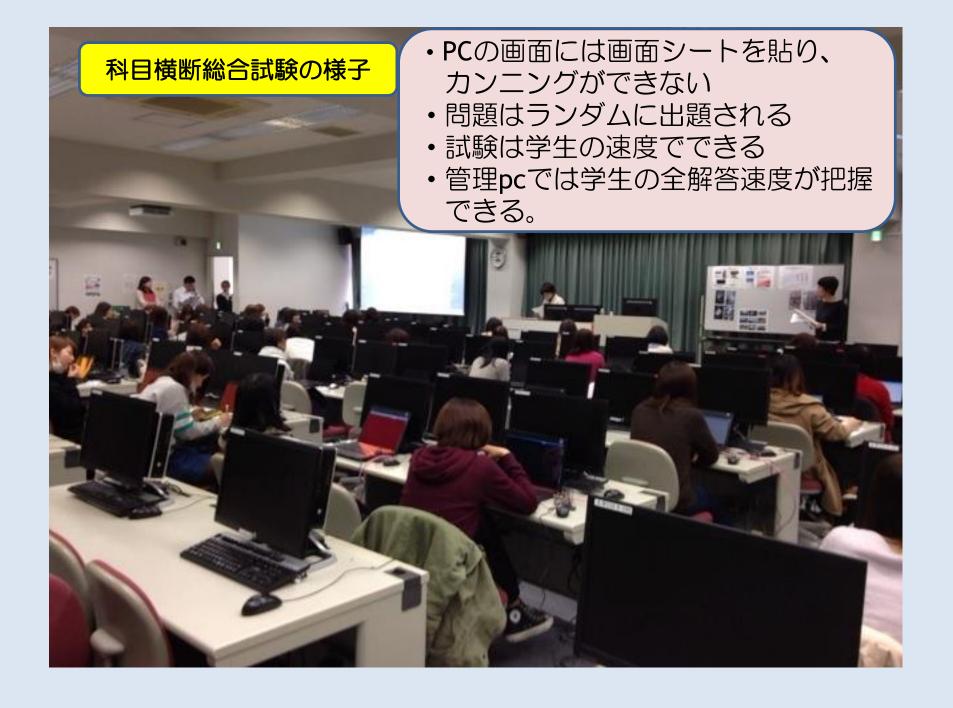
年 度	総合試験名
2011	看護学科

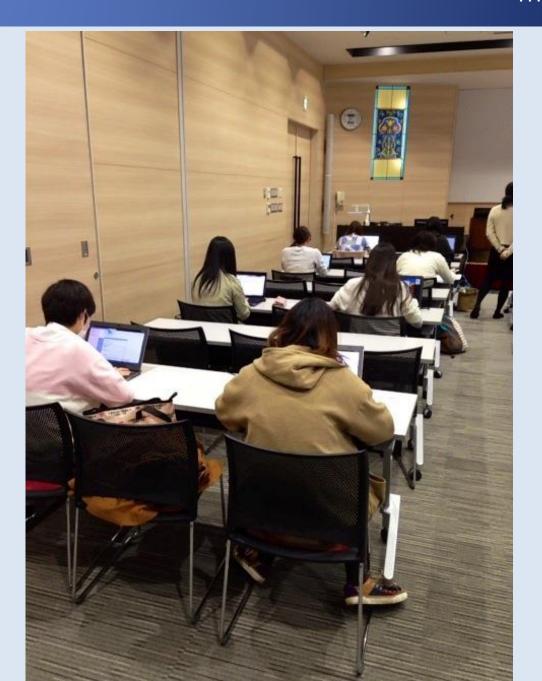
MCQの得点率	60.00%
論述の得点率	
合計得点率	60.00%
席次	20

ユニット(MCQ)	得点率	平均得点率	コース内得点率グラフ
生命と恒常性(ホメオスタシス)	25.00%	23.96%	
血液	100.00%	90.63%	20
生命の防御機構	0.00%	28.13%	
循環系	15.00%	37.95%	15
呼吸器系	40.00%	44.79%	<b>/</b>
神経系	75.00%	71.09%	教 10
運動系	25.00%	54.69%	
感覚器系	50.00%	50.00%	5
内分泌系	50.00%	71.88%	
消化器系	25.00%	36.72%	
代謝	0.00%	0.00%	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
泌尿器系	50.00%	51.56%	得点率
生殖と老化	0.00%	28.13%	コース全体の得点率
基礎看護学	65.00%	70.55%	
合 計	60.00%	56.01%	

### 科目横断総合試験との連動について②







## 技術のリフレクション

▶実践力の評価として モデル人形や同級生、対象(患者や利用 者等)への看護技術の実際についての 自己評価と経験した技術の習得度を記録 したステップアップノート※を用いて リフレクションを行う。

※厚生労働省が提唱する看護基礎教育で習得すべき技術項目を元に本学で独自に作成した看護技術習得度を記録するノート。

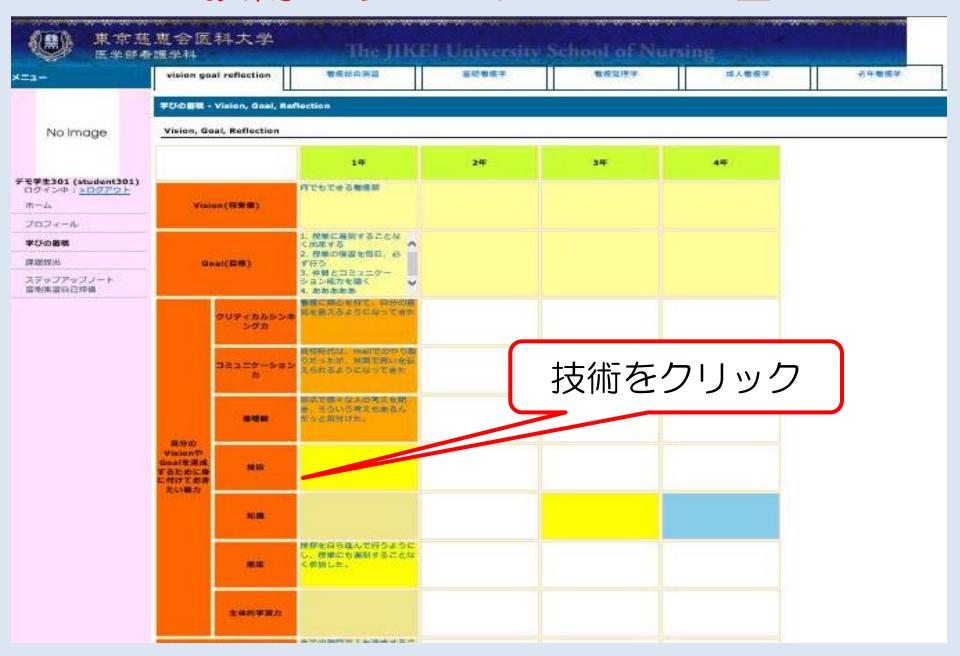
#### ステップアップノートの内容

▶記載されている技術項目は、看護師技術15 6項目、保健師技術61項目。

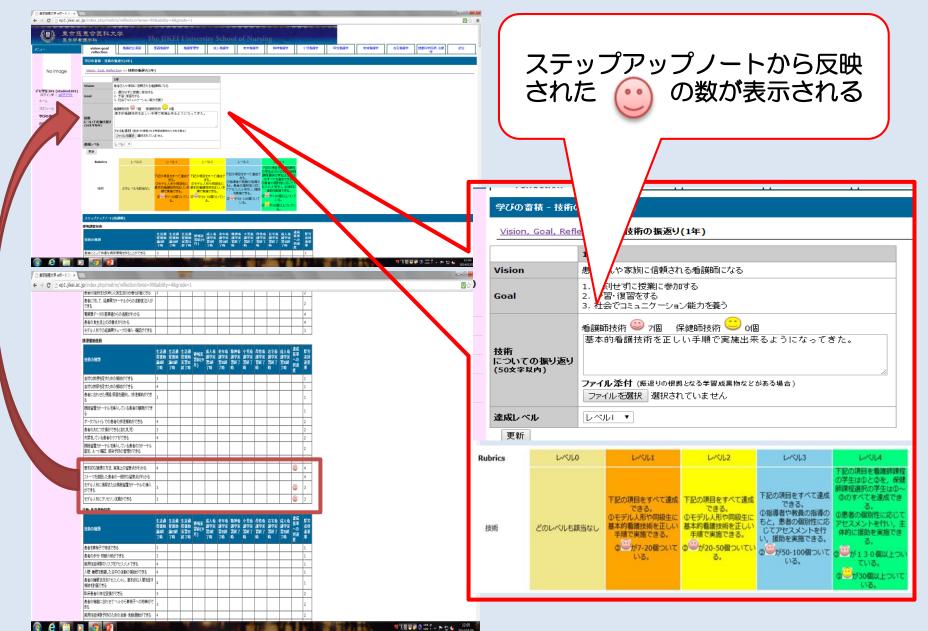
▶各技術について、厚生労働省の到達基準に達した場合、達成基準への到達度にが表示される

➤ 各実習時に教員と共に振り返りを行い、4年間 の習得技術が蓄積される

### 技術のリフレクション画面



#### リフレクション画面とステップアップノートの連動



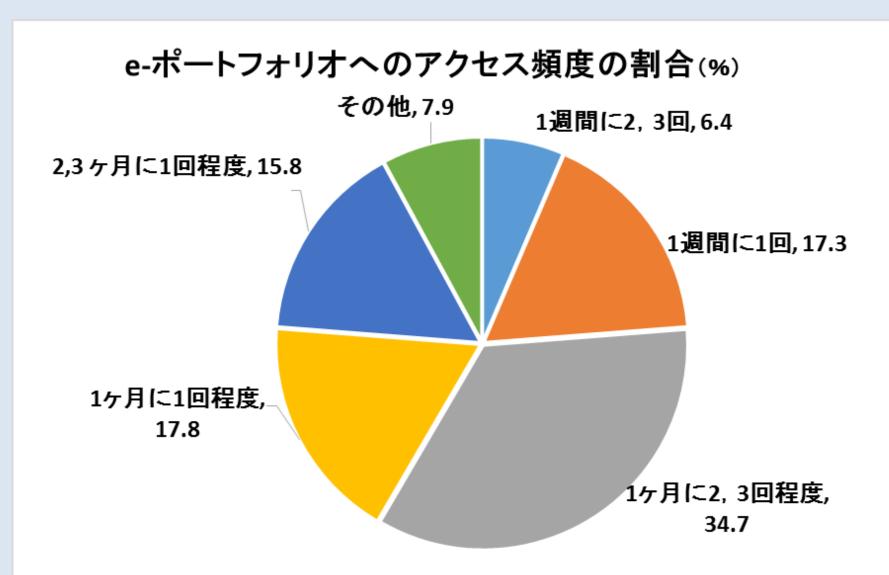
#### 教員側 学生のリフレクション確認画面



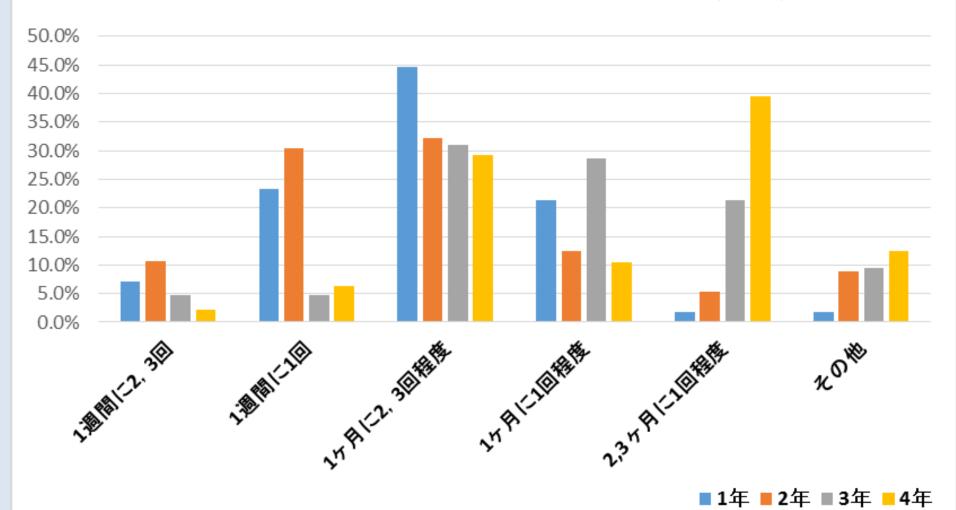


#### Ⅱ.4年間のe-ポートフォリオシステム運用の評価

#### 1.学生のe-ポートフォリオシステム活用状況

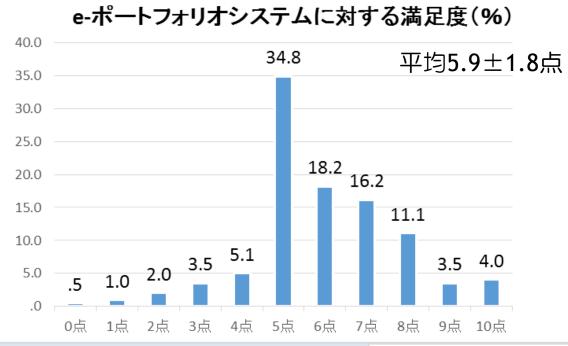


## 学年別のアクセス頻度(%)

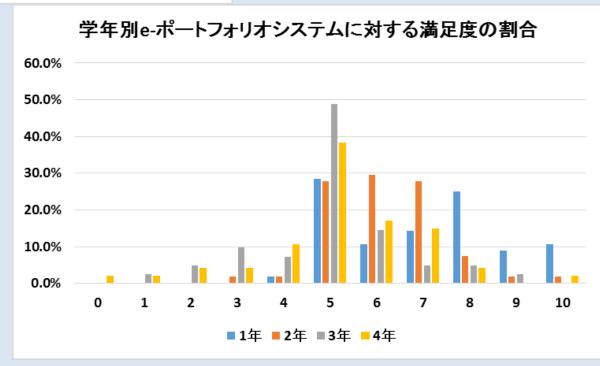


## 学生が使用している e-ポートフォリ機能1位から3位(%)

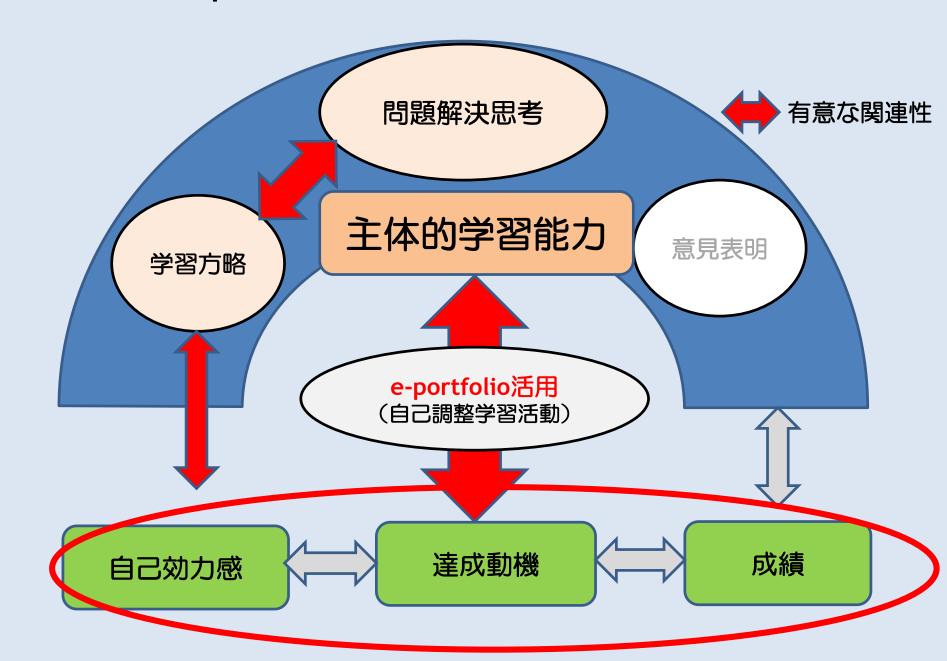
e-ポートフォリオ機能	1位	2位	3位
課題提出	88.7	3.9	.5
STEP UP/		12.7	7.8
ゴールとビジョンの振り返り	1.5	5.4	10.3
学習成果物の登録		9.3	15.2
学習成果物の振り返り		7.4	9.3
プロフィールの確認	2.9	25.5	12.3
お知らせ機能の閲覧		21.1	18.6
学習成果物の教員との やり取り		2.0	3.4
その他		1.0	.5



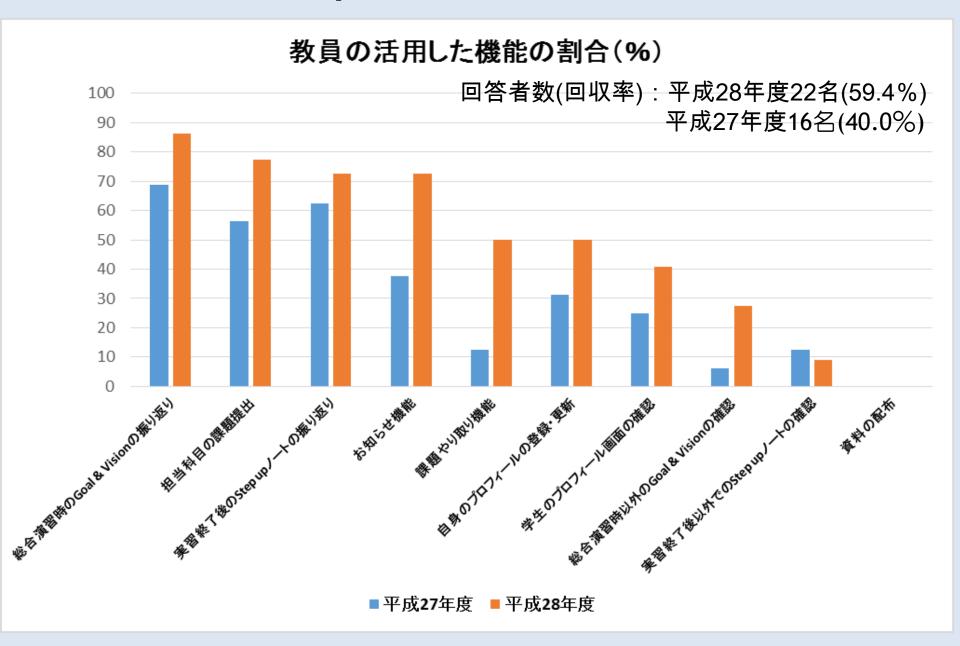
## 学生の満足度



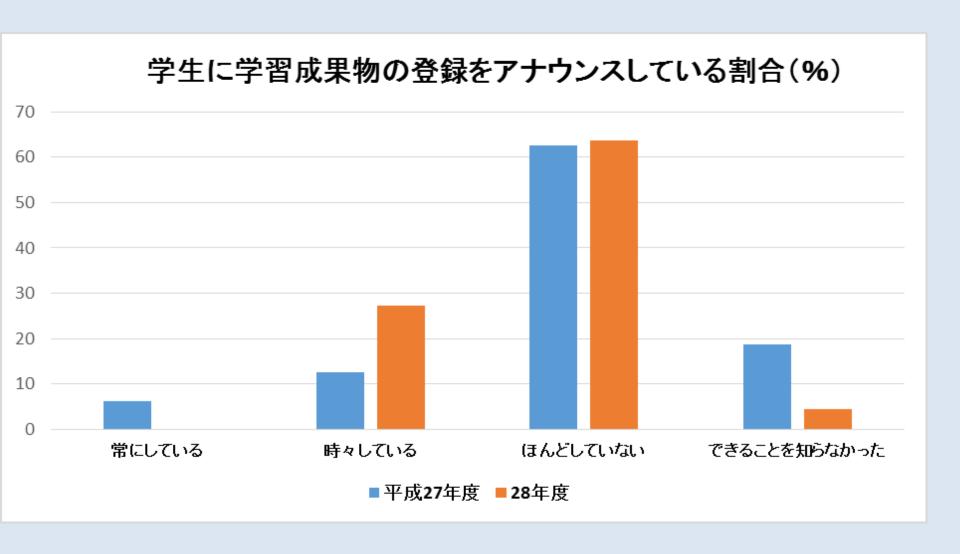
#### 2. 学生のe-portfolioシステム活用による学習効果



## 3. 教員のe-portfolioシステムの活用

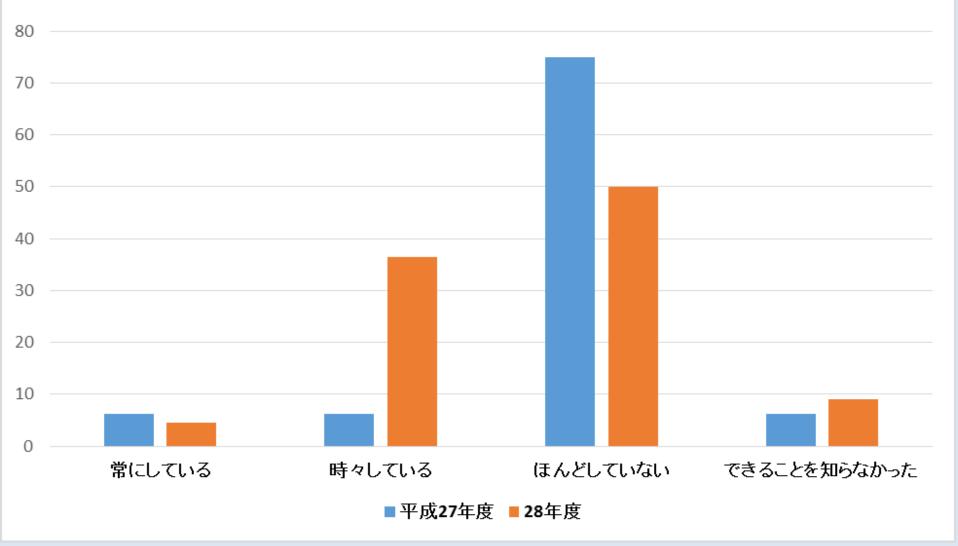


## 学生への学習成果物の登録の周知



#### e-ポートフォリオ上での採点機能の活用状況

#### 提出された課題をe-ポートフォリオ上で採点している割合(%)



# Ⅲ.今後のe-ポートフォリオシステムの 活用に向けての課題

①教員の意識改革

教員がe-ポートフォリオの機能を理解できるように 定期的に周知していく。

各科目で、学習成果物の蓄積を学生に促す。

②学生が主体的にアクセス頻度を高め、自らの学習の効果を実感できるように、e-ポートフォリオ以外のICTとの連動を検討する。

学生へのe-ポートフォリオを活用の周知を徹底する。